

0、消えない土地の記憶

私は、まち歩きが好きだ。

なぜなら、現代に残る昔からの場所や道などに行くと、**意外なまちの歴史**に触れられるからである。例えば、元々、何らかの理由で川だったところが暗渠になっていたり、古くからの道路が現在も使われていたりする。土地の記憶という観点から考えると史跡もその一つである。どこの土地でも昔の痕跡は必ず存在すると言っても過言ではない。



1、身近なところに史跡が！

自分のまちを散策していると、**相模国分寺跡**という大きな史跡に出会った。駅から近く、アクセスしやすい。駅前の都市開発が進められている中で、芝生が広がる緑豊かな場所で気持ち良かった。今は歴史公園として開放されていて、遊んでいる子供たちがいた。礎石の跡地が地面に示されており、整備が進んでいる印象を受けたが、歴史公園というより単なる広場としての活用が多いのではと感じた。



眠りから覚める 史跡活用と保存計画

史跡を整備するだけでなく、人が集える場も一緒に計画する。また、史跡の新たな展示方法を提案する。多角的な方向から歴史に触れられる空間を提供したい。

22110082
落合咲葉

6、史跡散策に行こう

コンセプト

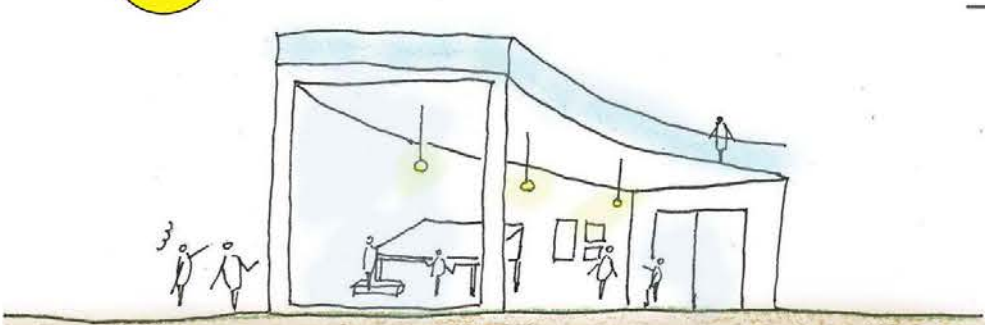
史跡を見る＝地面をめくる



▲以上の三要素を考慮し、有機的な空間デザインを提案

相模国分寺跡の全貌を知る

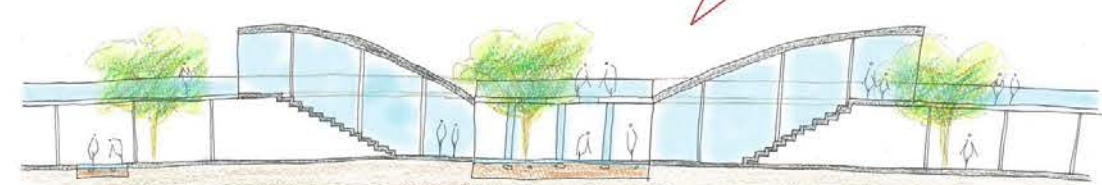
イ インフォメーション▼



海老名駅から来た来訪者が一番最初に目にする場所に**インフォメーション**を設けた。外に大きな窓を向けることで、内部の様子がよく分かるようにし、通行人に興味を持ってもらえるよう工夫した。また、回廊がまだ外に続くということも意味する空間でもある。

中 中門跡ギャラリー▼

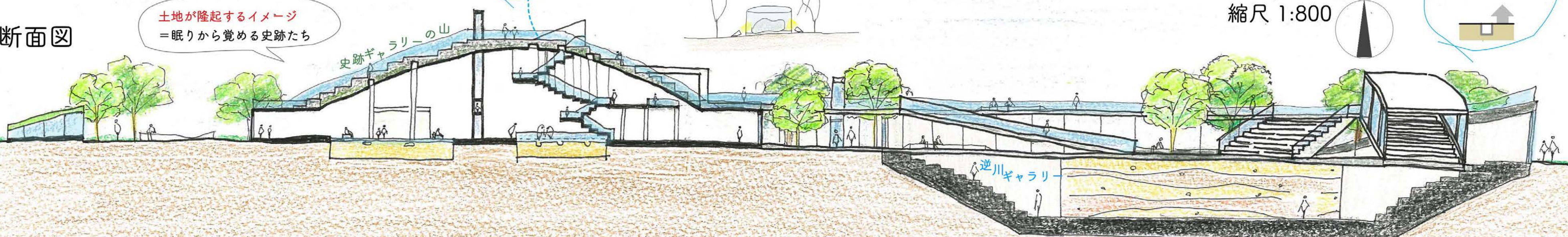
ガラス越しに史跡を見る
&
建物があつたことを想像



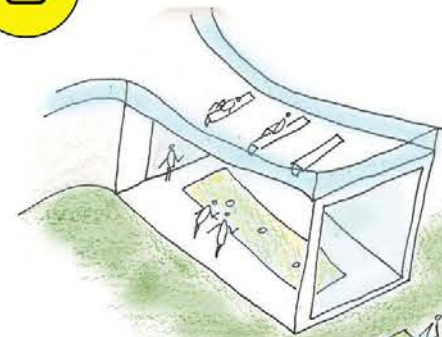
左右に階段をつけることによって、奈良時代、相模国分寺の玄関であった**中門**の存在を強くさせようとした。ちなみに史跡が見つかったのは回廊跡の礎石である。

A-A'断面図

土地が隆起するイメージ
＝眠りから覚める史跡たち



回廊跡ギャラリー▼



建物の外にも史跡を見せることで、敷地外部まで回廊が続くことを可視化させる。

北 北方建物跡・

カフェ・ミュージアムショップ・防災倉庫▼

ガラス越しに史跡を観察

片流れ屋根は大山の稜線を表しており、菱形の平面は逆川があつた方向に沿った角度で設計している。グズが欲しい・小腹が空いた時は北方建物跡エリアへ。

史跡の上で寛ぐ
&
地面をめくる

えっ！地面めくれてるっ

金 金堂跡ギャラリー▶

地下空間に繋がる階段を降りると、金堂跡の礎石がある地層が見られる

アンダーグラウンド

運河：逆川に思いを馳せて

川 逆川ギャラリー▼

奈良時代に運河として使用されていた逆川（さかさがわ）沿いの場所に地下空間を設け、川が流れていたことを実感できるような空間にした。

金堂跡ギャラリー

回廊（地上）

暗渠になっている
逆川を表現した空間

縮尺 1:800